

2022年度 自己評価及び学校関係者評価書

2023年3月10日

認定こども園カトリック聖園こどもの家

◎ 園の教育目標 『自分で考え、判断し、主体的に行動する子ども』

- ・やさしさと強さをもった子ども
- ・すべてのことに感謝する子ども
- ・人を大切にし、思いやりのある子ども
- ・祈りを通して、平和を愛する子ども

○ 今年度の経営の重点

- ・組織的に機能する職場づくり（主任を生かして）
- ・研修を通じたスキルアップ（組織的な研修の推進）
- ・基本的生活習慣の定着（あいさつ、返事、靴をそろえる）

■ 自己評価結果に対する関係者評価 <評価はA、B、C、Dの4段階> ()は昨年度の達成率

分野	評価項目	自己評価		関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教育・保育計画の編成と実施内容	園の建学の精神にあるキリスト教の理念を理解し、こども園教育・保育要領に基づき子どもの生活実態に即した計画作成に努めている。	A 93.1 (79.3)	・主任、高校教師による研修からは、キリスト教といろいろな物が深く結びついていることを学んだ。生活実態に結びつく日常の実践に生かすよう指導計画の見直しを図り、改善を進めていく。	A	A
	0歳児から就学前までの園児の発達の連続性を考慮し、生命保持や情緒の安定など養護の行き届いた保育・教育を展開している。	A 93.1 (82.8)	・乳児、幼児のそれぞれの打ち合わせで保育計画を確認し、突き合わせを行っている。特に、生命、健康にかかわること、発達の連続性に関わることについては、確認を綿密に行う。	A	A
	園児一人一人が主体的に活動し自発性や探索意欲を高めるとともに自分への自信を持つことが出来るよう適切に働きかけている。	A 75.9 (82.1)	・保育教諭が設定した活動の中に、子どもたちが選択できる環境を設定し、自主性や探索意欲向上を促す。さらに、意欲的な姿勢や成功達成を大いに評価し、本人の自信に繋げ、自尊感情を高めていく。	A	A
	乳幼児同士のかかわりの姿を捉え一人一人が安定感を持ち、友だちと思い合ったり協力したり出来るよう働きかけている。	B 69.0 (82.8)	・「隣人への愛」（他人を思いやる心）を子どもたちに日常的に伝え、協力し成し遂げる喜びを多く体験させる。コロナ禍で幼児、乳児の異年齢交流は控えていたが、収束後、交流を進めたい。	A	A

関係者評価委員による意見		B評価の項目について、コロナ対策で乳児と幼児の交流が持てなかったことに理解できる。			
分野	評価項目	自己評価		関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
保育教諭としての資質の向上	キリスト教の教えを学び、乳幼児に伝える指導法を研究したり、日常的に宗教講話や神様の話をして	A 77, 4 (35, 7)	・研修の中で、私たちの身の周りの物は、それぞれキリスト教的価値を持っていることを学んだ。このことを日常的に子どもたちに伝え、保育計画に生かし、日常実践に繋げていきたい。	A	A
	組織的な研修を行う中で、時代の流れ、求められていることをしっかりと捉え、日常の保育に生かしている。	A 83, 9 (42, 9)	・今年度は計8回園内研修を行うことができた。実践的な研修、今日的な課題「幼保小の学びの架け橋」に関する研修などを実施した。今後とも広くアンテナを張り、今日的な課題をしっかりと捉え、日々の保育に活かしていきたい。	A	A
	資質の向上を図るため、主体的、計画的に研修会や研究会に参加し終了後は研修報告を提出し還流を行っている。	A 93, 8 (71, 4)	・延べ人数50数人が研修会、研究会に参加している。帰園後、報告書を提出し還流を図っている。今後とも積極的に研修会に参加できる体制を維持し、研修意欲を高め、資質向上を図りたい。	A	A
関係者評価委員による意見		園内研修の回数の増加、また、各種研修会研究会への参加が、コロナ禍においても増えたこと職員の意識の高まりがうかがえる。			
子どもの安全と健康を	危機管理に関するマニュアルが整備され、適切な環境の維持に努めるとともに施設内外の設備、用具等衛生管理に努めている。	A 93, 9 (81, 1)	・危機管理マニュアルについては、今年度も見直し改定を行っている。設備用具点検は毎月行い、見直し、付け加えがあれば意見交流し点検内容を改定している。この体制を維持したい。	A	A
	事故の発生に備え、自然災害や不審者侵入に対する訓練を行い、事後反省点を洗い出し改善を図っている。	A 90, 9 (77, 1)	・避難訓練については毎月行い、月が進むごとに避難の内容も「予告あり」から「予告なし」、「室内待機」から「園舎から避難」と内容を高めている。終了後は反省点を洗い出し、事後の計画に生かしている。今後も継続して実施を進めたい。	A	A

守 る 方 策	乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む食育計画を作成しその評価及び改善に努めている。	A 96, 9 (88, 2)	食育計画に基づいて、栄養面、心理面、マナー面で望ましい食事の在り方の定着を図っている。評価、反省を行い、次年度の計画に繋がっている。今後とも給食会議（栄養士、園長、主任で構成）において給食時の交流を行い給食の改善に生かしていく。	A	A
関係者評価委員による意見		不審者対策を含めた避難訓練を行っていることは、今日、大切なことと考える。園だよりの食に関する栄養士さんのコラムは、子どもだけでなく保護者にも食に対する意識の高まりを促すものである。			
分 野	評 価 項 目	自 己 評 価		関係者評価	
		達成 状況	改 善 の 方 策	自己評価 の適切さ	改善策の 適切さ
子 育 て 保 支 護 者 と の 連 携	保育教諭の専門性を生かし、子育てに関する知識、技能、基本的な生活習慣定着などを保護者に伝え、「ともに育てる」という思いを高めている。	A 76, 7 (65, 5)	・保護者への子育てアドバイスは経験が大きく左右する。経験者に学び、力を積み上げていくことが重要である。	A	A
	本園では、子どもが健やかに育成される場所を提供し、地域の乳幼児、卒園生の教育及び保育の中心的な役割を果たすよう努めている。	A 96, 7 (87, 1)	・未就園児対象の「エンゼルクラス」「せいえん広場」、卒園生対象の「子ども会」はほぼ予定通り開催でき、所期の目的を達することが出来た。これらの活動が、より入園に繋がるよう努力する。	A	A
関係者評価委員による意見		未就園児の集いばかりではなく、卒園生が集う場を設けているのは、子どもも楽しみにしており今後も続けていただきたい。			
開 か れ た 園 づ く り	園だよりやホームページ、参観・懇談などを通して園の情報を広く公開するとともに保護者・地域の声にも耳を傾け、双方向に開かれた園づくりに努めている。	A 78, 8 (86, 7)	・子どもたちの活動の様子については、解説を加えHPに掲載し、速報を必要とする内容のものは、レーザーキッズで伝えている。今後とも保護者、地域の声を広く傾聴し、開かれた園づくりを目指していく。	A	A
	小学校訪問・交流などで小学校教育への円滑な接続を図るとともに、商業施設を含めた地域との連携の中で季節を感受する子どもの心を育てている。	A 90, 3 (62, 1)	・中央小学校5年生と年長の交流を今年度は3回ほど行った。図書館での交流、遊びを通しての交流。次年度は、授業や保育を通しての交流も行いたい。 また、大型商業施設からの作品依頼には年数回応じ、子どもたちの制作意欲を高める一因となっている。保護者も楽しみにしている作品展示なので、次年度以降も続けてまいりたい。	A	A

	園の評価結果を公開することにより、透明性を図り信頼される園を目指している。	<p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">100 (93, 9)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 達成率を昨年度と比較し、どのように変化したのかを表し、取り組み状況把握の目安とした。評価結果を公表することによって、園経営の透明性を高めていきたい。 	A	A
関係者評価委員による意見	<p>子どもの活動を映像や動画で伝えてもらうのはありがたいのですが、職員の負担にならないように行っていただきたい。スムーズな小学校生活に入るためにも、小学校との交流は、今後行っていただきたい。</p>				
関係者評価委員による評価、改善方策に関する全体への意見	<p>昨年評価が低かった項目の対策を立て、実行し、自己評価が高まったことは大いに評価できる。また、15項目中12項目においてAの数値が高まったことは、職員の意識の高まりにあるのではないかと考える。教師の体調不良者が増加しているようだが、無理をしない範囲で今後も活動していただきたい。</p>				